富士急行線と山梨県立都留高等学校との歩み

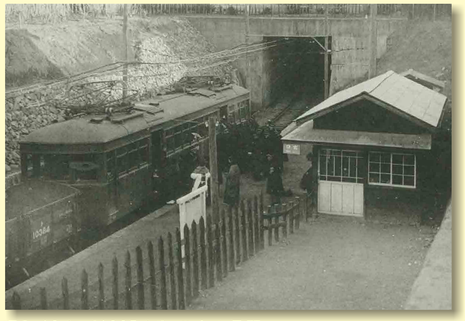
富士急行線と都留高校の歴史的なつながり

『駅名が教えてくれること』
「まもなく上大月、都留高校前駅です、お降りの方は・・・」
このアナウンスで、乗客の８割を占める若鶴たちが座席を立つ。朝の富士急行線上り列車の一コマです。

『百年の階』（創立百周年記念事業協賛会発行学校史）【戦時下都留中生活の思い出】～通学や学校生活～
谷村方面からは「テト馬車」と呼ばれた鉄道馬車が走っていたが、 値段が高く所要時間は大月―谷村間を一時間半も要した（中略）大正十四年九月には岳麓鉄道（正式には富士山麓電気鉄道、 現富士急行線）が開通となり、 遠距離通学が可能となった。

明治 33 年（1900 年）創立から数えて 120 年目の 2019 年、地域活性化を目的に取り組んだ生徒たちの課題研究（都留高探究プロジェクト）により、「都留高校前」という副駅名が付きました。「次代を変えるのは若者である」。まさに、このことを証明した出来事でした。母校のありがたさは、年齢を重ねないとわからないものです。駅名に校名を冠する歴史ある学校で学んだことの価値を、いつか必ず実感する時が来ます。この駅名は、間違いなくその手助けをしてくれるはずです。

「都留高ＰＴＡだより」（2020 年 3 月 1 日発行）より


昭和 10 年（1935 年）の上大月駅

上大月駅で通学する生徒たち

富士急行線で初めての副駅名称

2019 年に開業 90 周年を迎える富士急行線と 2020 年に創立 120 周年を迎える都留高校の共同企画として、2019 年 5 月 17 日に上大月駅に副駅名＜都留高校前＞を導入しました。副駅名の導入は 2017 年に都留高校の生徒が地域の活性化について考察した課題研究『上大月駅を都留高校前駅に』での提案が契機となりました。

都留高探究プロジェクト「上大月駅を都留高校前駅に」

都留高校前駅デザインプロジェクト

副駅名の設定に合わせ、富士急行と都留高校の共同企画として、上大月駅の記念入場券や待合室などをデザインする「都留高校前駅デザインプロジェクト」を発足しました。このプロジェクトにより、2019 年 5 月 17 日に都留高校美術部がデザインした上大月＜都留高校前＞駅副駅名設定記念入場券セットを発売、2021 年 3 月には都留高校の校章にもなっている「鶴」を取り入れた駅待合室のリニューアルが完成しました。

↑記念入場券パッケージ（表面）

記念入場券（内面）

若鶴を育む温かな巣

待合室のリニューアルにあたり、デザインコンセプトを都留高校の校章の由来にもなっている若鶴を取り入れた「若鶴を育む温かな巣」としました。
日頃から都留高校生（若鶴）の成長を見守り、広い社会へ巣立ってからも世界中のあらゆる場所で活躍していくことを願う駅として愛着の湧く空間を目指しました。
また待合室内には、進学や試験等の「合格」になぞらえて「幸運の若鶴マーク」が５つ隠されています。ぜひ電車の待合時間に全て探し出してみてください。